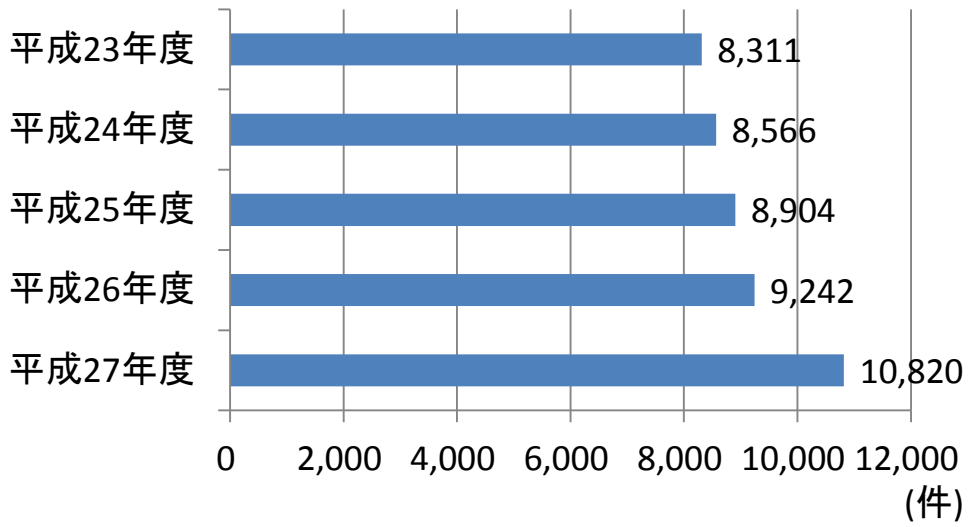
10　手術技術度DとEとの手術件数

解説	国立大学附属病院は急性期医療の要であり，外科治療の能力が必要です。この指標は，単に手術件数だけでなく，どの程度難しい手術に対応できるのかを表現する指標です。手術の難しさと必要な医師数を勘案した総合的な手術難度を技術度といいますが，外科系学会社会保険委員会連合の試案では，2000種類余りの手術をそれぞれ技術度AからEまでの5段階に分類しています。技術度D及びEには熟練した外科経験を持つ医師・看護師や器具が必要なので，難易度の高い手術といえます。
実績	
定義	DPCデータを元に算出した，外科系学会社会保険委員会連合（外保連）「手術報酬に関する外保連試案（第8版　平成23年12月）」において技術度D及びEに指定されている手術の件数です。1手術で複数のKコードがある場合は，主たる手術のみの件数とします。